

在宅ケアを推進する薬剤師と
訪問看護師の協働に必要な場づくり

帝京科学大学 医療科学部 看護学科 准教授

さだむら みきこ
定村 美紀子

啓発事業 在宅ケアを推進する薬剤師と訪問看護師の協働に必要な場づくり

帝京科学大学医療科学部 啓発事業実施者 氏名 定村 美紀子

〒120-0045 東京都足立区千住桜木 2-2-1 電話 03-6910-1010

要旨

1、啓発事業実施目的

諸外国に例をみない速さで高齢化が進行しているわが国において、社会の発展を支えてきた団塊の世代の人々が、75歳以上になる2025年は、国民の医療や介護の需要がさらに増加することが見込まれている。高齢となり心身の機能低下や疾患があっても住み慣れた地域で可能な限り自分らしく暮らし続けたいという願いを実現するため、医療や介護サービスを受けながら生活を維持・継続できる地域包括ケアシステムを整えることが求められている。地域ケアにおいて、認知症高齢者への見守り、災害時の対策など日常生活を維持できるように医療者と介護者が協働しコミュニティの機能を強化することが必要である。特に、医療的なケアを在宅で継続するには、安全で効果的に医薬品を使用することが重要であり、医療面と生活面から本人に働きかけ自己管理できるような支援を行っていかねばならない。「対話」のないところには、安心も、信頼も、成果も生まれないといわれている。多様な価値観や経験をもつ関係者が、在宅における薬剤の管理のあり方について課題を共有し、知恵とチカラを合わせた話し合いの場を作ることは、セルフメディケーションを普及する環境整備となる。そこで、各種関係団体に働きかけ、所属や職種、組織を越えた多職種による顔の見える関係づくり、地域連携や協働など地域包括ケアシステム構築を推進する組織開発を目指して本事業に取り組んだ。

2、啓発事業実施方法および内容

2-1 ワールドカフェの実施

テーマ「住み慣れた自宅で暮らし続けるための地域包括ケアとは

～健康寿命を延ばすために、お薬との上手な付き合い方～

実施時期：平成28年7月9日（土） 場所：帝京科学大学

目的：在宅療養者に対する服薬支援において医療や看護、介護、リハビリ、福祉に携わる者がお互いの役割や価値観、ケアに対する考え方を知る。

対象：地域活動に関心のある一般住民、薬局関係者、地域保健福祉関係者等

参加人数：29名

2-2 ファシリテーション研修会の実施

テーマ「地域包括ケアの現場で活かすファシリテーションスキルを学ぶ」

実施時期：平成28年11月27日（日） 場所：帝京科学大学

目的：多様な価値観や問題意識をもつ人々のモチベーションを高め多職種連携活動をスムーズに行うための実践的な技術を身に付ける。

対象：薬局関係者、地域包括支援センター職員、地域の介護福祉関係者等

参加人数：23名

2-3 多職種連携研修会の実施

テーマ「医療と介護の連携を促すために多職種でつくる『対話の場』

～在宅における服薬支援について」

実施時期：平成29年3月13日（日） 場所：在宅総合ケアセンター

目的：身近な地域で医療や介護に携わる人たちが在宅における服薬支援について話し合い、お互いを理解することで多職種連携のきっかけをつくる。

対象：医師会、歯科医師会、薬剤師会、訪問看護ステーション、介護保険事業所、地域包括支援センター関係者

参加人数：37名

3、啓発事業成果

3-1 ワールドカフェの成果

「健康寿命を延ばすために、お薬との上手な付き合い方」について在宅療養患者を支える薬剤師や看護師、介護関係者、住民を対象にワールドカフェを実施した。ワールドカフェとは、「カフェ」にいるようなリラックスした雰囲気の中、参加者が少人数に分かれ1つのテーブルを構成し対話する形式である。地域包括ケアに携わる人々が「薬と健康」をキーワードに話し合い和やかな雰囲気の中で日々の活動を振り返ることができた。

3-2 ファシリテーション研修会の成果

「地域ケアと薬」をテーマに在宅療養患者を支える、薬剤師や看護師、介護関係者を対象に専門の講師の指導のもとで、一日研修会を開催した。研修内容は、①ファシリテーションの基礎を理解する、②場づくりのコミュニケーションスキルを学ぶ、③知恵と力をあわせる会議を試す、④私らしいファシリテーションに気づくというセッションで講義やグループワークを実施した。地域包括ケアを漢字1文字で表すことに取り組むワークでは、「結」、「生」、「和」などがグループから発表された。このワークでは、グループのメンバーと漢字1文字を決定するまでのプロセスを通し、多様な背景や価値観をもつ人々が合意形

成していくことの難しさや、他者の意見に耳を傾け、効果的に自分の気持ちや考え方を伝えながら時間をかけ話し合うプロセスが大切であることを実感するワークとなった。

3-3 多職種連携研修会の成果

身近な地域で在宅ケアにかかわる人々が、日常の業務の中で薬について困っていることや疑問に思っていることなどについて話し合う機会をもつことができた。初対面の人と話をするにあたり、講師から、1.相手の思いに耳を傾けて下さい、2.自分自身のことを語って下さい、3.ゆったりと話し合ってください、4.「書く」「描く」「つなぐ」という留意点が説明された。話し合いたい内容を参加者それぞれが用紙に記載し、類似したテーマの者とグループワークを行った。当日は、多様な経験や背景の人々が参加していたため、薬について「一度聞いてみたいと思っていた」というような内容から話し合いが広がり、介護職から医師や薬剤師に普段気になっていたことを質問するなど各テーブルが相談の場のような雰囲気の中で話し合いが進んだ。テーマとなった内容には、「複数あるお薬手帳の管理」「認知症の方への服薬支援」「残薬管理」「吸入薬や隔日投与薬など管理が複雑な薬」「飲酒と服薬」「医師に相談する時のコツ」「内服を拒否する患者への対処法」「精神疾患と薬」等、処方された薬を自己管理し指示通りに服用することの困難さ、そこに様々な人々が関わっていること、支援者間で情報共有することの大切さを再確認することができた。

4、考察

今回、対話の場を企画し、地域包括ケアに携わる人々に参加していただくことができた。グループワークの様子、アンケートに記載された内容など、日常とは違う雰囲気の中に身を置くことで、それまでの他者とのかかわり方や自己の考え方を振り返る支援ができたのではないかと考える。メールやスマートフォンなどが普及し、生身の人間と向かい合う対話的空氣が薄くなっている。用件は伝えられても、文字や言葉だけでは伝わらない思いや気持ちを面と向かって対話する場面が少なくなると、自分の存在感やアイデンティティが稀薄になる。対話は、結論を無理に出す必要がなく対話の過程での新しい発見や思考に意識を向けながら、他人の意見を聞くことが重要であると暉峻¹⁾は、述べている。人は、無意識の中で「素の自分」と「役割の自分」を使い分けながら、周囲との関係性を築いているのではないかと考える。医療や介護の現場では、患者や利用者との関係、多職種との関係など、専門性が求められる医療職、介護職への期待やそれに応えようする力が「役割の自分」を強く意識させ、形式的なコミュニケーションとなり、背景にある思いや気持ちの部分の伝わりにくくしているのではないかと考える。「薬の件ではどれも皆同じような事で悩んでいる事がわかり、少々ほっとしてしまいました」という感想が示すように、自分が悩んでいることを他の人も同じように悩んでいることに気づけば仲間意識が芽生え、相手をより深く理解しようという気持ちになる。また、対話の場は、日頃向き合わなかった自分との出会いの場にもなり、心の声に耳を傾けることで周囲とのかかわり方を変化さ

せるきっかけになるのではないかと考える。コミュニティに対話の場をつくり多職種連携活動を推進する土壌をつくっていくことがセルフメディケーションにおいて重要であると考える。

引用参考文献：1) 暉峻淑子（2017）『対話する社会へ』岩波新書。

5、まとめ

人は誰もが年老い、身体の衰えとともに病気や障害になる可能性も高まってくる。住み慣れた地域で見慣れた景色に囲まれながらいつもの生活が続けられるコミュニティを築くことがこれからの社会ではとても大切である。そのようなコミュニティをつくるために、限られた資源を最大限に活かしながらできることから取り組んでいきたいと思えます。最後になりましたが、本事業の実施にあたり、一般用医薬品セルフメディケーション振興財団様をはじめ様々な組織・団体からご支援ご協力をいただきました。関係者の皆様にご心より感謝申し上げます。

6、資料、表、図及び写真など

広報活動および研修会資料

*****お知らせ*****

住み慣れた自宅で暮らし続けるための地域包括ケアとは
健康寿命を延ばすために、お薬との上手な付き合い方
ワールドカフェを開催します




★日時：平成28年7月9日（土）
14時30分～17時00分（14：00 受付開始）

★場所：帝京科学大学2号館（2階教室）
所在地：東京都足立区千住元町34-1

※参加を希望される方は、
6月30日（木）までに定付メール sadasure@ntu.ac.jp
宛ては、FAX：03-6910-3813 にご連絡下さい。

◇お問い合わせ先◇ 帝京科学大学 看護学科：定付
東京都足立区千住緑木2-2-1 TEL：03-6910-1010（代表）




ワールドカフェ開催にあたって・・・

誰もが高齢社会を実現するために私たち一人ひとりが自分の健康に責任をもち日々をいかに健康に生きるかが問われています。自助・互助・共助・公助など地域社会の助け合いや適切な薬の服用による病気のコントロール、生活習慣病予防や程度が不調は自分で手当てするセルフメディケーションを実践し私たちが今できることから行動することが重要です。健康寿命を延ばすために、お薬との上手な付き合い方というテーマで、ワールドカフェを企画しました。「対話」のやいところには、安心も、信頼も、成果も生まれるといわれています。顔にまつわる様々な情報を皆さんと共有し、これからの地域ケアのあり方について知恵を出し合う場になれば幸いです。皆様のご協力をお願いいたします。

主催者一同

※ワールドカフェとは、「カフェ」にいるようなリラックスした雰囲気の中で、参加者が少人数に分かれて自由に対話をしお互いの考えを深める話し合いの方法です。



ワールドカフェちらし

東京科学大学ワールドカフェ 101623

ワールド・カフェ 7月9日(土)
「お茶との上手な付き合い方」

○日時: 2016年7月9日(土) 14:30~17:00
○会場: 東京科学大学2号館3階研修室
○主催: 東京科学大学理事 佐村典紀子
東京科学大学国際本部 2-2-1 TEL: 03-6910-1010 academ@sci.ku.ac.jp
○運営: LLCチーム運営 広瀬純尚 嶋田直

進行予定
1400 開場
1430~1500 オリエントেশション、ワールド・カフェの説明
[ワールド・カフェ]
1500~1525 第1セッション テーマについて話し合う(アイスブレイク)
1530~1555 第2セッション 各テーブルマスター(話し手)を推挙して、他のメンバーは、進行役として他のテーブルにつき、マスターは、自分のテーブルのアイスブレイクについて説明する。参加者は、自分のアイスブレイクで出したアイデアを発表し、つながりを得ます。
1555~1620 第3セッション テーブルマスター(話し手)、他のテーブルに移動
1620~1650 第4セッション 気づきのわらわらい
1650~1700 クロージング

食物を盛りだくさんの上に置いて、飲み物と貴重品を片手に持ち、好きな席にお座りください。お茶を片手片足からかけておいてください。ワールド・カフェ中の各種交換はご遠慮ください。
せっかくの機会ですので、皆さんと交流してください。

東京科学大学ワールドカフェ 101623

ワールド・カフェとは?

「知識や知恵は、限定的な会議の中で生み出されるのではなく、人々がオープンに会話をし、自由にネットワークを築くことのできる「カフェ」のような空間こそ創出される」という考えに基づいた「対話(ダイアログ)のプロセス」。

Janice Brown(アニー・ブロン)氏と David Isaacs(デイビッド・アイザックス)氏によっても、1995年に開発・発表されました。

その後、世界中の様々な企業、組織、コミュニティで、組織の活性化やコミュニティの形成、創造的な会議、地域社会の活性化などで使われています。

日本物のカフェのようにリラックスした雰囲気の中で、テーマに集中した対話を行います。

○自分の意見を否定されず、尊重されるという安全な場で、相手の意見を聞き、つながりを意識しながら自分の意見を伝えることにより生まれる場の一歩を味わえます。

○メンバーの組み合わせを変えながら、4~8人前後の小グループで話し合いを続けることにより、あなたも参加者全員が話し合っているような効果が得られます。

※ 対話の目的は「誰か一人の意見を押し付けること」ではありません。

- ◇ あなた自身のことを「話す」
聞いて見つけ、「今、ここ」で感じたこと、思っていたことを次明にしてください。
- ◇ 聞いてこそ「聞く」
真実だけでなく、心の奥にある思い、意図、価値観に耳を傾けてください。
- ◇ 対話といふのは定数に決まらず、
経験は必ずしもありません。経験の場ではありません。
自分の意見の正当性を主張する場でもありません。
多様な意見に触れ、それらに触れる自分自身を育ててください。
- ◇ リラックスしすぎず
緊張や厳しさはありません。ちょっとした緊張が対話の気づきにつながります。
話し合いで真意に届けてください。
- ◇ 早く1回く1つでなく
対話の中で生まれたアイデアや思いについて意見を交換してください。
雑談でもありません。雑談が嫌いな人も大丈夫です。
レッツ! エンジョイ!! この場を楽しんでください!!

ワールドカフェ配布資料

★★ 研修会のご案内 ★★

日時:平成28年11月27日(日)10:00~17:30
場所:東京科学大学 2号館2階教室
東京都足立区千住元町 34-1 TEL: 03-6910-1010 (代表)

★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★

**テーマ: 地域包括ケアの現場で活かす
ファシリテーションスキルを学ぶ**

住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを続けるために様々な立場の人々が協働し「地域包括ケアシステム」を構築することが必要とされています。多様な価値観や考え方を、経験、実践を通して自分自身のセパレーションを高め、完璧を達成し、多職種連携活動とスムーズに進めるための実践的な技術を身に付ける研修会を開催しました。

※ 講師やグループワーク等の1日研修となります。

[内容]

1. ファシリテーションの基礎を習得する
2. 場づくりのコミュニケーションスキルを学ぶ
3. 知恵と力をあわせる会話を試す
4. 自分らしいファシリテーションはこれぞ!

参加費は無料です。お申し込みを10月21日(金)までにお願いたします。
○お問い合わせ先
東京科学大学 看護学科 佐村典紀子 連絡先 E-mail: academ@sci.ku.ac.jp

ファシリテーション研修会ちらし

平成28年度 足立区地域包括ケアシステム推進

**中部ブロック多職種連携
研修会のご案内**

医療と介護の連携を促すために
多職種でつくる「対話の場」

テーマ
在宅における服薬支援について

地域包括ケアシステムは、多様な価値観や立場を超えて多職種が協働し、寄り添っていくことが求められています。身近な地域で医療や介護に携わる人たちがテーマについて日頃感じていることやちょっと困っていることなどを語り合う場を企画しました。早速に話し合い、聴きあうことでより深くお互いを理解し多職種連携のためのヒントを見つけることができればと思います。研修会はグループワークのため定員を40名とさせていただきます。

～日時と会場～
日時: 3月13日(月) 19時~21時
(18時30分から受付開始)
場所: 医療法人社団 聖徳会 足立区南田 7-18-11
在宅包括ケアセンター3階
講師: 嶋田 直 (合同会社チーム医療)

講師: 社団法理法人 一般社団法人セルフメデイケーション推進財団

多職種連携研修会ちらし

学電科学大学ワールド・カフェ 2016.7.9

ワールド・カフェ 7月9日(土)
「お茶との上手な付き合い方」

○日時: 2016年7月9日(土) 14:30~17:00
 ○会場: 電気科学大学2号館2階(旧図書)
 ○主催: 電気科学大学看護学科 実行委員会
 東京都足立区千住元町2-1 TEL: 03-6010-1010 adsc@adnita.ac.jp
 ○講師: 北川チエミ 看護学 看護学 看護学

受付予定
 1400 開場
 1430~1500 オリエンテーション、ワールド・カフェの説明
 (ワールド・カフェ)

1500~1525 第1セッション	テーマ(セッション)について話し合うアイデアの 共有(グループワーク)【15分】を体験して、参加者同士は 同行者としてのグループについて話し合う。参加者は、自分のテー マのアイデアをグループについて話し合う。参加者は、自分の アイデアをグループで出したアイデアを話し、つながりを得るす る。
1525~1620 第2セッション	グループワークを体験し、自分のグループに属す る。
1620~1650 第3セッション	気づきの共有タイム

1630~1700 クロージング

身体を揺り動かすのに合わせて、飲み物と食卓を上手に持ちこなす。好きな飲み物をお楽しみ
 ください。お茶を飲みながらお話を聞いてください。ワールド・カフェの雰囲気はご満
 足ください。
 せっかくの機会ですので、皆さんと交流してください。

学電科学大学ワールド・カフェ 2016.7.9

ワールド・カフェとは?

「知識や知恵は、機能的な自覚の中で生まれるのではなく、人々がオープンに話し合い、自由にネットワーキングを築くことで生まれる」という考えに基づいた「対話」のプロセスです。

Janis Brown(アニー・ブロン)氏と David Isaacs(デヴィッド・アイザックス)氏によっても、1995年に開発・提唱されました。

その後、世界中の様々な企業、組織、コミュニティで、組織の活性化やコミュニケーションの改善、創造的な対話、組織文化の活性化などで使われてきました。

口本独自の文化や状況に合わせてアレンジされたワークショップの中で、テーマに関連した対話をを行います。

- 自分の意見を否定されず、尊重されるという安全な場で、相手の意見と聞き、つながりを築きながら自分の意見を伝えることにより生まれる場の一役を働かせることができます。
- メンバーの組み合わせを変えながら、4~5人程度の小グループで話し合いを続けることにより、あなたも参加者全員が話し合っているような雰囲気を持ちます。

ワールド・カフェの目的は、参加者同士が話し合うことです。

- ◆ **あなた自身のことを「話す」**
 話しをきつめ、「あ、ここ」で話したことを、聞いてくれたことを大切にしてください。
- ◆ **聞いてもらう「聞く」**
 言葉だけでなく、心の底にある思い、感情、価値観に耳を傾けてください。
- ◆ **対話から何かの気づきを得る**
 結論を出す必要はありません、結論の場ではありません。
 自分の意見の正否を判断する場でもありません。
 多様な意見に触れて、それに加えられる自分自身を見てください。
- ◆ **リラックスもがじティブ**
 緊張や拘束はありません。ちょっとした道具が何かの気づきにつながります。
 聞かないで自由に話してください。
- ◆ **楽しく「つなぐ」**
 対話の中で生まれたアイデアを聞いたことをお話ししてください。
 感謝状ではありません、感謝が嬉しいものです。
 レッパ! エンジョイ!! この場を楽しんでください!!

ワールドカフェ配布資料

★★★ 研修会のご案内 ★★★

日時: 平成28年11月27日(日) 10:00~17:30

場所: 電気科学大学 2号館2階教室
東京都足立区千住元町34-1 TEL: 03-6010-1010 (代表)

★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★

**テーマ: 地域包括ケアの現場で活かす
ファシリテーションスキルを学ぶ**

様々な現場で、自分らしい暮らしを実現するために様々な立場の人々が協力し「地域包括ケアシステム」を構築することが必要とされています。多様な価値観や考え方を、理解、関係構築を促す人々のファシリテーションを求め、研修を促進し、多職種連携活動のスムーズに進めるための実践的な技術を身に付ける研修会を開催しました。

※研修費やグループワーク等の1日研修費となります。

【内容】

1. ファシリテーションの基礎を復習する
2. 気づきのコミュニケーションスキルを学ぶ
3. 知事と民生委員の役割を学ぶ
4. 自分らしいファシリテーションに気づく

※参加は無料です。お申し込みを10月21日(金)までお願いします。
 ○お問い合わせ先
 電気科学大学 看護学科 実行委員会 連絡先 [E-mail: adsc@adnita.ac.jp](mailto:adsc@adnita.ac.jp)

ファシリテーション研修会ちらし

平成28年度 足立区地域包括ケアシステム推進

**中部ブロック多職種連携
研修会のご案内**

医療と介護の連携を促すために
多職種でつくる「対話の場」

テーマ
在宅における服薬支援について

地域包括ケアシステムは、多様な価値観や立場を越えて多職種が協働し創りあげていくことが求められています。身近な地域で医療や介護に関わる人たちがテーマについて日頃感じていることやちょっと困っていることなどを語り合う場を企画しました。率直に話し合い、聴きあうことでより深くお互いを理解し多職種連携のためのヒントを見つけることができればと思います。研修会はグループワークのため定員を40名とさせていただきます。

～日時と会場～
 日時: 3月13日(月) 19時~21時
 (18時30分から受付開始)
 場所: 健康福祉人材育成会 足立区南田7-18-11
 在宅研修センター3階
 講師: 嶋田 亞 (自治会社会員 職員)

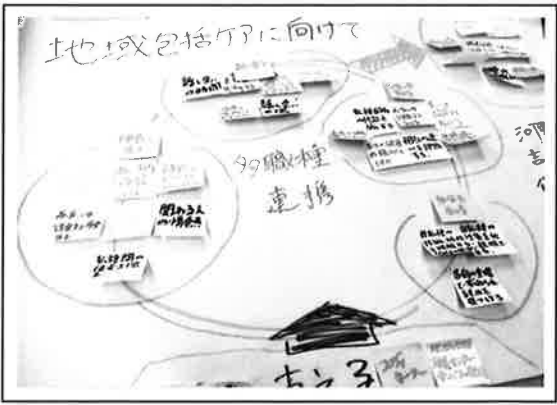
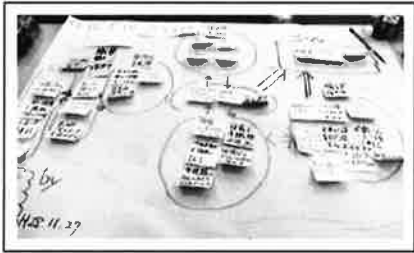
講師: 北川チエミ 看護学 看護学 看護学

多職種連携研修会ちらし

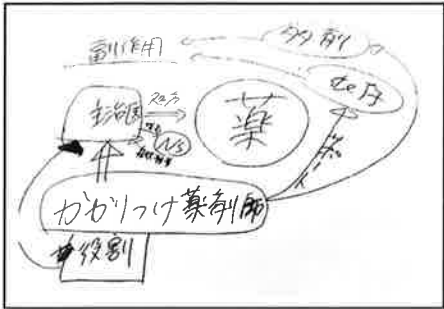
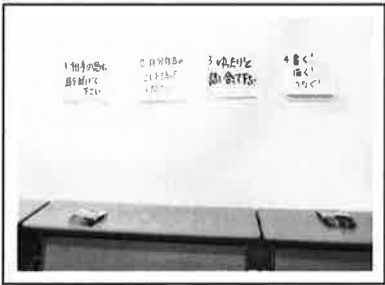
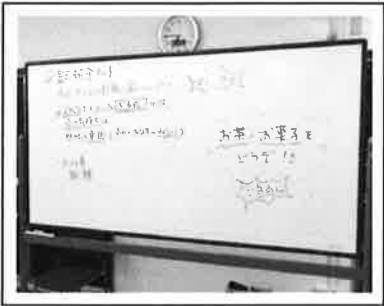
ワールドカフェ会場の様子



ファシリテーション研修会場の様子



多職種連携研修会場の様子



多職種連携研修会実施後のアンケートより

【気づいたこと、学んだこと、感想等】

- ・ 皆さん同じ様な悩み等があるが、言えていない事がわかった。
- ・ それぞれの職種での悩み、苦労があることを理解でき利用者さんのために頑張りたいと思います。
- ・ とても楽しい時間、有意義な時間をもつことができました。ありがとうございました。
- ・ 自分も看護師として、利用者にかかわる一サービスとしての責任も自覚しました。
- ・ 悩みが共有できた。
- ・ 介護の現場のチームワークという大切さにもっと興味がわきました。
- ・ 研修をいかに楽しくプログラムするかを学びました。
- ・ ケアマネが利用者の薬を把握することの必要性、チームアプローチに薬局が必要なことに気づきました。
- ・ やはり自分が他職種を理解することに努力しきれていないことに気づいた。また、機会をつくってください。
- ・ コミュニケーションが大切
- ・ 薬の件ではどれも皆同じような事で悩んでいる事がわかり、少々ほっとしてしまいました。
- ・ 話しを聞かない人はきかない、意見を言う人は言い続ける。
- ・ 学びの場では、皆優しい、楽しそうです。私も楽しかったです。
- ・ いろんな職種の方の意見がきけて有効であった。
- ・ 問題点を受けとめ、真摯に仕事していると感じる方ばかりだった。みんなそうだといいのに。
- ・ ケアマネとして薬にも気をつけていきたい。
- ・ 服薬支援についての課題が明確になった。
- ・ 同じ悩みをもっている人がおり、勉強になりました。
- ・ 小さな発言の下に大きな思いがあると感じました。大きな思いを考えたり伺ったりしていきたい。
- ・ 他の専門職（薬剤師さん）の独特の支援、アプローチのあり方を複数聴けたことは、大いに勉強になりました。
- ・ 薬剤師のコンプライアンスの高さを学びました。
- ・ ご本人が服薬できていると言われても確認が必要だと改めて思いました。ご本人の気持ちを考慮しつつ今後の対応を考えていきたいです。
- ・ 介護職の方がもっと薬剤師と連携する必要があると思われていることに気づき、今まで遠慮を理由に出来なかったこと、していなかったことを見直そうと思いました。
- ・ 思っていた以上にまだ、薬剤師の認知度が低い。
- ・ 相手の立場で考える事を再確認した。
- ・ 薬に関する様々な種類
- ・ 残薬がたくさんあることを知った。歯科ではそんなに出すわけではないが、医科ではそういうことがたくさんあるということ。
- ・ 患者様のCPについて包括センターの方も薬剤師も上げたいという思いが強いことを痛感しました。